

桐陽高1年生 被災者と交流

1泊2日で福島訪問

桐陽高（沼津市）の1年生70人がこのほど、総合学習の一環で福島県の東日本大震災被災地を訪れた。被災者との交流や河津桜の記念植樹などを行い、復興途上にある現状に理解を深めた。

（東部総局・水島重慶）

復興途上の現状理解 桜を植樹 河津記念

訪問は1泊2日の日程で行った。一行は東京電力福島第1原発事故の影響で立ち入りが制限されている富岡町の様子を車中から見学。広野町では仮設住宅での生活を経験した地元住民との交流会を開いた。沼津市から特産の干物300枚を持参して住民に贈った。

植樹は広野町の復興拠点として整備が進むJR広野駅前と、いわき市のスパリゾートハワイアンズに計20本を植えた。昨年の訪問で植樹した木の手入れも行った。

同校は東日本大震災の被災地への訪問研修を2014年から毎年実施している。寄贈した河津桜と干物の購入には、文化祭の地上絵製作のために集めた54万5千個のアルミ缶の売却益と、出店の収益金を充てた。

河津桜の植樹を行う生徒たち

福島県広野町

